

広島から一番近い原発 (直線 100km)

四電

いかた げんぱつ

# 第5回 伊方原発再稼働を許さないデモ

主催：伊方原発の再稼働を許さない市民ネットワーク・広島 2012.9.15 15:00～

# 南風に乗れり、潮に乗れり 広島は伊方原発 最大の被害地元 です。

## 危険な伊方原発と社長のウソ

今年4月20日四国電力社長・千葉昭氏は「伊方(原発)が動かないと(今夏)需給は厳しい。火力が1基止まれば、非常に綱渡りの数字だ」と記者会見で述べました。(朝日新聞大阪本社版4月21日付け朝刊) この時千葉氏は確信犯的な大ウソをついていました。そして大手マスコミはこの千葉氏のコメントを検証抜きに大々的に報じました。実際は四国電力は**原発なしで650万kW以上の供給能力**を持っています。それに対して今夏ピーク時最大需要は518万kW(7月30日)でしかありませんでした。なぜウソをつくのでしょうか？

(裏面参照のこと)

プルトニウム半減期 2.4 万年。  
海が汚れる…土が汚れる…。  
原発事故は「想定内」です。



原子力保安院がストレステストを承認している原発は、関電大飯原発3・4号機、それに四電伊方原発3号機です。

次の再稼働は、伊方原発です。



← 潮流  
環境省「瀬戸内海の環境情報」から  
「第6235号 豊後水道付近潮流図」(海上保安庁、平成18年1月)  
「第6233号 広島湾及安芸灘潮流図」(海上保安庁、平成15年2月)  
「第6232号 備後灘及備讃瀬戸潮流図」(海上保安庁、平成16年2月)

## 伊方原発を再稼働させたい四電の事情

その答えは四国電力の経営内情にあります。**四電の純資産は連結ベースでも 3268 億円**しかありません。(2012・3 末現在) それに対して**原発関連の資産は 2425 億円**あります。3 つの原子炉のどれかが廃炉になれば、四電は厳しい状況に直面します。まして 3 つの原子炉がすべて廃炉になれば、原発関連の資産価値はゼロ。確かに使用済み核燃料再処理等積立金 1219 億円などを計上していますが、大量の使用済み核燃料を処理する費用としては焼け石に水の金額です。つまり**四電にとって「廃炉」はすぐさま「債務超過」「倒産」を意味します。四電は有利子負債を 6736 億円も抱えています。貸し込んでいるのはメガバンクや地元有力地銀、日本生命などの機関投資家**です。彼らは四電の大株主でもあります。千葉氏のウソは経営危機回避の必死のウソでした。

### 四国電力 純資産と有利子負債

いずれも該当年度 3 月 31 日現在。単位は億円。連結ベース。

	純資産	総資産	有利子負債	連結売上
2010 年	3,602	4,057	6,882	5,454
2011 年	3,614	13,800	6,594	5,921
2012 年	3,268	13,752	6,736	5,921

- 有利子負債は社債、長期借入金、1 年以内に期限到来の固定負債、短期借入金商業手形の 5 項目の合計。四電有価証券報告書平成 23 年及び 24 年による。
- 純資産 = 総資産 - 総負債

### 四国電力 原発関連資産

いずれも該当年度 3 月 31 日現在。単位は億円。

	原子力発電設備	装荷核燃料	加工中等核燃料	合計
2011 年	1,101	214	1,065	2,380
2012 年	1,041	258	1,126	2,425

1. 12 月 31 月末で使用済み核燃料再処理等積立金を 1219 億円資産計上している。ほぼ加工中等核燃料資産計上額と見合っている。しかし、実際に使用済み核燃料自処理するとこんな金額ではとても足りない。

### 関西電力 主な株主 (2012 年 3 月 31 日現在)

株主名	持株比率
四電自己株式	6.94%
日本生命	4.15%
伊予銀行	3.97%
百十四銀行	3.97%
住友共同電力	3.17%
高知県	2.79%
日本トラスティ・サービス	2.32%
四電従業員持株会	2.05%
日本マスタートラスト	2.05%
明治安田生保	1.79%
四国銀行	1.23%
上位計	34.43%

- 日本トラスティ・サービス信託銀行は信託銀行。三井住友 G の事実上の子会社。
- 日本マスタートラスト信託銀行は事実上三菱 UFJ グループの子会社。日本生命が資本参加している。
- 伊予銀行は愛媛県を地盤とする地元最大手銀行
- 百十四銀行は香川県を地盤とする地元最大手銀行
- 住友共同電力は大正 8 年 (1919 年) 新居浜地区で事業展開する旧住友財閥系の企業群に電力を供給する目的で設立された水力発電会社に淵源がある。現在も四国に展開する住友グループ企業に電力を供給するほか四国電力にも供給している。住友化学の事実上の子会社
- 四国銀行は高知県を地盤とする地元最大手銀行

## 再稼働・事故がなくても危険な伊方原発

伊方原発は**中央構造線**という日本最大級の活断層のほぼ真上にある他、有名な**南海トラフ**を震源とする巨大地震の影響を受けやすい立地条件にあります。地震が起こればひとたまりもありません。しかし地震や福島原発事故のような苛酷事故を起こさなくても伊方原発は実は危険でした。1-3 号機は近年でも**何回もトラブルを起こしています。1 号機**は運転開始以来主要なトラブルだけでも **20 回**を数えています。最も新しい **3 号機**も 2000 年代に入って **2 回もトラブル**を起こしています。しかも **3 号機**はプルトニウム化合物を使用する**プルサーマル炉**なのです。さらに過去 10 年間瀬戸内海に液体の形で放出した**放射性トリチウムは 552 兆 (テラ) Bq**にも昇ります。2010 年度は **1700 億 Bq の希ガス、1 万 7000Bq のヨウ素 131** を気体の形で環境に放出しています。伊方原発を絶対に再稼働させてはなりません。**最大の被害地元は広島です。**

### 四国電力 伊方原子力発電所

原発名	番号	定格出力	運転開始時期	経過年数	累計トラブル
伊方原発	1 号機	56.6 万 kW	1977 年 9 月 30 日	36 年	20 件
	2 号機	56.6 万 kW	1982 年 3 月 19 日	31 年	6 件
	3 号機	89 万 kW	1994 年 12 月 15 日	19 年	3 件

- 経過年数は運転開始年を初年とし 2012 年までの暦年経過年数
- 累計トラブル件数は関電の事実上自己申告による。実際はこれよりはるかに多いと考えられる。
- 3 号機は**プルトニウム化合物を混在させたプルサーマル炉**
- 資料出典は「原子力施設運転管理年報」平成 23 年度版

### 伊方原発のトラブル一覧表 (2003 年 4 月 ~ 2011 年 3 月)

トラブル機	発生時期	トラブルの概要
3 号機	2004 年 3 月	1 次冷却材ポンプへの封水注入系統へ流入低下。冷却不完全。ポンプ主軸の破断が原因
1 号機	2004 年 12 月	定期検査中に補助建屋排気筒のひび割れを発見。内面 12 箇所がひび割れておりうち 4 箇所が貫通。隙間から侵入した雨水による腐食が原因。
3 号機	2005 年 5 月	定格出力中に異音発生。羽根車及びシールリングの一部が接触して損傷が原因。
1 号機	2006 年 6 月	定格出力中に異常音。蒸気整流板本体と内部プレートの溶接部に長さ 49cm と 37cm の割れを確認。
1 号機	2010 年 4 月	非常用ディーゼル発電機冷却用海水配管に傷。別作業中工具がライニングに接触したことが原因。
1 号機	2010 年 7 月	原子炉補機冷却用海水配管に傷。配管内面に欠損海水の流況による自然損耗が原因。

※**トラブル報告は事実上自己申告であり、これ以外にもトラブルありと考えられる。**  
※資料出典は「原子力施設運転管理年報」平成 17 年度版から平成 23 年度版

### 伊方原子力発電所が 10 年間で放出した液体の形でのトリチウム

単位: ベクレル

2010 年	51 兆	2005 年	53 兆
2009 年	57 兆	2004 年	68 兆
2008 年	58 兆	2003 年	54 兆
2007 年	66 兆	2002 年	52 兆
2006 年	46 兆	2001 年	47 兆
合計 <b>552 兆</b>			

### 伊方原発が放出する希ガス放射能

2010 年 4 月 ~ 2011 年 3 月。単位はベクレル。

	希ガス	ヨウ素 131
実績値	1700 億 Bq	1 万 7000Bq
目標管理値	1500 兆 Bq	810 億 Bq

- 希ガスはクリプトン 85 やキセノン 133 が主体と考えられる。
- 管理値は規制当局が定めた放出上限規制値だが、数値を見ておわかりのように上限を極端に高くし事実上ないも同然。
- 出典は原子力施設運転管理年報平成 23 年度版